

「十年一昔」と言われるが、最近是一年が経つスピードさえも早く感じ、世の中の動きに必死に食らいついている人も少なくないだろう。

校長になり、「今の子供たちが生きていく時代は、どんな時代になっているだろう」と考えることがよくある。100年前にどれだけの人が現代を予想できただろうか。飛行機や新幹線で自由に旅行に行くこと、携帯電話やスマートフォンの普及、授業でタブレット使用など……。しかし、将来の変化を予測することが困難な時代を迎えることになっても、よりよい社会と幸福な人生を自ら創り出していくことに変わりはなく、そのために必要な資質・能力をしっかりと養うために、道徳教育はこれまで以上に重要な役割を果たさなければならない。

道徳科は、一人一人が自分の心を見つめ、よりよい生き方について考える教科である。その考えを広げたり深めたりするためには、多様な考えや価値観に触れながら考えることも大切である。

ところが、これまでの道徳の時間は、「読み物の登場人物の心情理解のみに偏った授業」「決まりきった答えを言わせたり書かせたりする授業」等が多いという課題も指摘もされてきた。また、「道徳教育そのものが忌避しがちな風潮がある」「他教科等に比べて軽んじられている」「効果的な指導方法が共有されていない」「高学年になるにつれて道徳の時間に関する児童の受け止めがよくない」等の課題もある。

平成30年4月に「特別の教科 道徳」が小学校で全面実施され、本校は令和2年から佐賀県教育委員会より道徳教育推進の加配をいただき、これまで5年間にわたり道徳教育の研究に取り組んできた。

しかしながら、この5年間の研究や実践は、特定の指導方法を「型」として取り入れることを目指すものではない。道徳教育の目標は、「自己の（人間としての）生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として、他者とともによりよく生きるための基盤となる道徳性を養う」ことにある。この目標を実現するためには、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の子供が自分自身の問題としてとらえ向き合う、「考え、議論する道徳」への質的な転換を図るため、児童の実態に応じて、多様な創意工夫を生かした授業づくりをする必要がある。これまでの本校の研究が、これからの時代を生きていく子供たちのよりよい生き方の手助けとなることを切に願うばかりである。

末筆ながら、本校の研究に対して、いつも丁寧にご指導していただいた浜崎小学校 金丸ゆか先生に心より感謝申し上げます。

校長 市丸 明彦